

八尾美術展のご紹介

清水健二

第6回KOZoom ミーティングの開かれた12月28日に、近況報告の中でお正月明けに恒例の八尾美術展が開催されることから、出展予定作品をお見せしました。リモートでの映像表現は難かしかつたので、改めて会場の雰囲気も合わせ写真を撮りましたのでご覧ください。

4年前の平成29年「第32回河内100人展」(八尾市と東大阪市の美術協会員から選出)が、八尾西武ホールで開催されました。ところが西武百貨店の閉鎖を最後に、以降は各市で独自に美術展を開催することになりました。



今年は「第4回新春八尾美会員展」が1月6日～11日まで八尾文化会館(プリズムホール)で目下開催中です。

60人(絵画、陶芸、立体造形の3部門)が出品し、コロナ禍の厳しい制約のもとではありますが、多数の方々が鑑賞に来て頂いております。

会員には日展に出品されている方々も含まれてレベルも高く、いつも私は気後れしながらも頑張ってきています。

立体造形部門への私の作品は、**題名「春を待つ」で雪国の母と子供たち**を彫刻にしました。

コロナ禍に翻弄され、厳寒の毎日ですが、やがて訪れて来るであろう春を待つ気持ちを表現してみました。

絵画部門の作品は100号クラスが展示されています。私の独断で、気に入った作品を選んで写真を撮ってきましたのでご紹介します。



会場風景



陶芸部門からの1部



絵画部門から



立体造形部門から

